

SPECIAL REPORT

平成29年度酪農教育ファーム「スキルアップ研修会」の開催

本会議は、平成29年度の酪農教育ファーム・スキルアップ研修会を全国7会場で開催する。本年度の研修会では、酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生・防疫対策」について再確認するとともに、講師の知識や考え方を参考にしてファシリテーションスキルを向上させる。

1. 研修の目的

スキルアップ研修会は、酪農教育ファーム・ファシリテーター（以下、「ファシリテーター」という）の認証更新のため、3年に一度受講することになっており、本年度は表に示したように全国7会場で開催される。

平成29年度酪農教育ファーム「スキルアップ研修会」の開催計画

地域	開催日	会場	安全・衛生講師	ワークショップ講師
岡山市	9月8日	丸田産業株式会社ディスプレイ事業部・貸会議室中ホール	木島秀雄（愛知県学校給食牛乳協会）	加茂太郎（加茂牧場）
東京都	9月22日	港区立商工会館・2階研修室	島田 亘（千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所）	立野美香（イナアソシエーション）
名古屋市	10月6日	フジコミュニティセンター・会議室	島田 亘（千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所）	上田 融（NPO法人いぶり自然学校）
新潟市	10月20日	駅南貸会議室KENTO・5階会議室	木島秀雄（愛知県学校給食牛乳協会）	加茂太郎（加茂牧場）
札幌市	11月2日	北農ビル・第5会議室	村田 亮（酪農学園大学獣医学群）	上田 融（NPO法人いぶり自然学校）
仙台市	11月17日	仙台駅前貸会議室ヒューモスファイブ・8階貸会議室	島田 亘（千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所）	加茂太郎（加茂牧場）
福岡市	12月1日	カンファレンスASC・4階会議室	酒井由紀夫（有限会社いとしま動物クリニック）	立野美香（イナアソシエーション）

本年度の研修目的は次のとおりである。

- (1) 酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生・防疫対策」について改めて確認を行う。
- (2) 講師の知識や考え方を参考にしながら、ファシリテーションスキルを向上させる。
- (3) 経験年数や年齢、地域や活動内容等が異なる参加者同士の情報交換等を通じて、自らの酪農教育ファーム活動を客観的に振り返り、これまでの成果と課題、課題解決の方法等に気づく。
- (4) 研修会を通して気づいたことを自分の酪農体験プログラムに反映させ、活動の本来の目的である「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」にさらに近づける。
- (5) 最近の酪農を巡る情勢について、情報と問題意識の共有を図る。

2. 岡山会場の概要

ここでは、9月8日に岡山市で開催された本年度最初の研修会について、その概要を紹介する。岡山会場では、18名のファシリテーターが参加し、認証を更新した。



(1) 講演：酪農教育ファームにおける安全・衛生対策の確認

(講師) 愛知県学校給食牛乳協会

事務局長 木島秀雄氏

安全な酪農体験とするための対応ポイント、動物由来人畜共通感染症への対策、牧場(酪農)と特に関係の深い家畜伝染病(口蹄疫等)の予防対策、生乳の衛生的な取り扱い方、手作り体験で共通する注意点等について説明した。

クリプトスポリジウムが原因と考えられる下痢について質問があり、「クリプトは細菌やウイルスではなく原虫である。昔、クリプトが水道水に紛れ込み、人間が下痢をするという問題が起こったことがある。クリプトに消毒薬は効かない。出所は牧場であったようだ。現在は、水道水は濾過されているので問題ないが、現場で働く方はクリプトがいるということを前提に考えて対策をする必要がある。経口感染なので、まずは手洗い。井戸水などにも気を付けてほしい。症例がない地域の医師だと分からない可能性もある」と回答された。

また、鹿など偶蹄類に接触した観光客を介した口蹄疫の感染リスクについて、「口蹄疫の診断は抗体を測って、感染しているかどうかを調べる。その気になれば他の動物にも感染しているかどうかを調べることはできる。ただ、経験上、鹿などが口蹄疫に感染しているということはないと思うので、そこまで調べる必要はないのではないかと思う」という見解が示された。

【木島講師による講演】



(2) ワークショップ：伝わるためにはコツがある(意識的に仕組み、相手の腑に落とす)

(講師) 株式会社加茂牧場

代表取締役 加茂太郎氏

自らが行う酪農体験の目的(ねらい)をもとに、「導入」、「展開」、「まとめ」の項目に振り分け、自らのプログラムを分かり易く説明した。その上で、留意点やポイントを整理し、目的にたどり着く内容になっているかどうかを検証した。

質疑応答の時間に、元教員である加茂氏は自身の経験について、「教員の頃、酪農を継ぐ気はなく、学校で牧場に行くことも、学校に出前授業を呼び入れることもなかった。でも、自分が酪農家になってその凄さに気付いた。恥ずかしながら、教員当時はこれほど感動できる授業はできていなかった」と述べた。

また、小学校での性教育の実態について、「簡単なことは4年生の理科、保健体育の両方でやる。5年生なら受精という言葉は知っているし、6年生になると簡単にだが人間の卵巣の話なども学ぶ。学校に行くときに、先生にどこまでやっているか聞くのがよい。こちらは恥ずかしがらずに堂々とやった方がよい」と説明した。

【加茂講師によるワークショップ】

